

～第12回法人合同研修報告～

島田福祉会では職員の学習意欲と機会を保障し、資質向上に努めておりますが、その一環として、法人全体での職員教育の充実を図るため、毎年2回「法人合同研修」を実施しております。11月16日に行われた第12回は、「劇団風の子」でご活躍の、大森靖枝先生をお招きして、コミュニケーション力の向上を図りました。

2020年2月 増刊第23号

社会福祉法人 島田福祉会

発行人：藤田知意

法人事務所 大田区大森北 3-3-5

電話・FAX 6404-9100・5767-5125

<http://www5.famille.ne.jp/~shfk136/>

E-Mail:bigforest1-3-6@neo.famille.ne.jp

「表現とコミュニケーション」

法人全体ではなく園単位で講師をお願いしたことのある大森先生は、劇団の公演でお忙しい傍ら、ワークショップを通して、幅広い年齢層を対象に、表現や集団の雰囲気作りなどのヒントとなるようなご指導にとり組んでいらっしゃいます。今回は、表現力がコミュニケーション力を育てることを実感し、「対子ども」だけではない、保護者、職員同士、地域の方など、さまざまな集団でのコミュニケーションを密にすることで、人間関係を積極的に構築できるような内容をと、欲張りなお願いに快く対応して下さいました。もともと座学より動く方が得意な職員が多いので、「学ぶ」ことはもちろん、笑いが絶えない「リラックス」の時間にもなったようです。



「今回学んだことを、今後の業務にどう生かしていこうと思いますか？」

(★は島田、★は駅前、★は北六丁目、★は北嶺町、★は北嶺町第二)



- ★会議の前にゲームをして場を和ませたりするのは、リラックス効果もあり確かに意見交換しやすかった。子どもと会話するときは、ただうなずいて聞くだけではなく、質問をたくさんして考える力を養うことが大事だと分かったので、子どもと話すとき意識したいです。(栄養士・調理員)
- ★子どもとのコミュニケーションというより、給食室内で使えそうだった。空気が悪い時等、積極的に行ってみたい。また、食育の前等、集中してほしい時、子ども達と実践しても面白いと思う。(栄養士・調理員)
- ★大人が子どもとちゃんと向き合い、子どもにはそれぞれのタイミングがあるから、急がせることなく、子どものわずかな信号を見逃さず、表現を引き出す技を、私自身少しでも身につけたいと思います。食育活動の時や、子ども達と接するときに活かせるとよいと思います。(栄養士・調理員)
- ★コミュニケーション能力の向上を考えたとき、たとえばクッキング保育等、園児と直接関わるときに、声の大きさ、抑揚をつける、目をきちんと合わせて話す等、細かいところに気をつけながら接していきたいと思います。子どもに興味を引かせる術を身につけたいです。(栄養士・調理員)
- ★子どもは、関わる大人と同じような表情をするという話が印象的でした。なってほしい子どもの姿を常に念頭に置き、自分自身がそのような姿でいるように心がけていこうと思います。表現の楽しさを伝えるために、自分が楽しく表現することもその一つです。(保育士・非常勤職員)
- ★相手に興味を持ち、相手の目を見て気持ちをくみ取りながらコミュニケーションを発展させていきたい。子どもには「質問していくとよい」とおっしゃっておられたので、たくさん問いかけながら接していきたいと思います。(保育士・非常勤職員)
- ★「子どもは大人を真似る」「子どもにどうなってほしいか態度で示す」という言葉や、子どもを引き込む方法(表情・動きなど)を自分なりに取り入れていきたいです。(保育士)
- ★表現に正解はなく、保育士がイメージすることと違った場合でも、否定しないでいきたいと思いました(明らかに違う場合でも、まずは表現できたことを認めたいです)。自信を持って発言できるような声かけ等をしていきたいと思いました。(保育士)
- ★「子どもは大人に似る」という言葉がとても印象に残りました。何事も楽しい雰囲気を大切にしながら保育していきたいと思います。(保育士)
- ★手をたたくことも表現の一つ。乳児期から繰り返し楽しむことで、成長と共に表現する楽しさをもっともっと感じられると思います。乳児保育の中でも意識的に取り入れたいです。(保育士)
- ★保育をするときに子ども達が楽しめるようにすることも大事だが、まず保育士も一緒に楽しむことで、子どももその魅力を感じてくれるのだと感じた。子ども達を何かの型にはめず、一人ひとりのとり組む過程を見守り、その子らしさを大切に一緒に成長していきたいと感じた。(保育士)
- ★先生のお話の仕方(声の大きさ、抑揚をつけた話し方)を普段の業務の中でも真似してみようと思います。コミュニケーションを使ったゲームは、集会などで異年齢交流がある場でやってみて、子ども同士のコミュニケーションが必要なときに使ってみたいです。(保育士)
- ★子どもの前では、常に明るく期待を持てるような話をしていく。相手のことを考え、向上心を養っていきけるようにしていきたい。(保育士)
- ★今回学んだいくつかの遊びは、保育の中で取り入れていきたい。クラスが互いを思い合い、協力したり、楽しい時間を共有していく中で、人と関わる楽しさを味わっていけるようになればと思う。(保育士)
- ★表現することは楽しいことだが、無理にやらせようとして焦るのではなく、子どものペースで「やりたい」と感じた時に参加できる環境を用意していこうと思った。(保育士)
- ★行事や地域活動の時に最初の始め方がとても重要だと分かりました。実際に自分が行うときにだしを工夫してみようと思いました。(保育士)
- ★対子どもだけではなく、対大人の関わりの際にも使える。ゲームなども教えてもらったので、保護者会のはじめなどにリラックスできるように取り入れていきたい。(保育士)
- ★子どもの目の表情や雰囲気を読み取り、大きな声で元気に関わるか、落ち着いた声でゆったりと関わるかを日によって変えていきたい。また、子どもの興味が出るもの(キラキラしたビーズや探偵団になりきるなど)を用意し、楽しいと思えるような活動をしていきたい。(保育士)
- ★つつい堅苦しくなってしまう会議の前に取り入れたり、保護者と信頼関係を築く前の初期段階に行う等、子どもはもちろんですが、どの対象でも取り入れられると思いました。(園長・主任・副主任)
- ★子どもと一緒に日々発見を喜び、ファンタジーのある子どもの世界をどんどん引き出したいと思いました。また、円になって遊び、しりとり、連想、玉つきの仲間や友達を感じられる遊びも幼児クラスで取り入れたいですし、乳児ではラーメンになったような表現遊びがしたいと思いました。ドーパミンサイクルも実践してみたいです。失敗を笑い飛ばせるように子ども達を育てたいです。(園長・主任・副主任)